

歌  
を  
ま  
と  
う  
絵  
の  
系  
譜

特別展

# 国宝 燕子花図屏風

National Treasure *Iris* Screens  
A Legacy of Poetic Allusion

今年も、国宝「燕子花図屏風」の季節がやってきました。尾形光琳(1658〜1716)によつて生みだされた名品を、このたびは、和歌とともにお楽しみいただきます。

「燕子花図屏風」は『伊勢物語』の一節に基づいて描かれたと考えられています。その一節とは、東国に下る途中の主人公が、三河国の八橋で燕子花の群生を目にして、都に残してきた妻を思いだすという場面です。クライマックスには、「かきつばた」の五文字を各句の冒頭において「唐衣きつつなれにしましあれば はるばる来ぬる旅をしぞ思ふ」という和歌が詠まれます。「燕子花図屏風」の象徴的な画面には、このよく知られた歌が響き渡っているように感じられます。

古来、歌と絵は密接な関係を結んできました。歌の意味をあらわす歌絵や、歌に詠われた名所を描く名所絵にはじまり、画中に和歌の賛が書かれた作品や歌から名前を付けられた画題、あるいは物語のなかで詠まれた和歌を抜き書きした源氏絵など、多彩に展開します。本展覧会では、こうした和歌と関わりをもつさまざまな絵画作品を集め、そのなかで「燕子花図屏風」を味わってみたいと思います。

またこのたびは、館藏品にあわせて、室町時代に制作された「伊勢物語絵巻」(個人蔵) 3巻を特別に展示します。『伊勢物語』の世界に触れる絶好の機会ともなるでしょう。



2016年4月13日(水) — 5月15日(日)

● 夜間開館 5/10(火)〜15(日)は午後7時まで開館「入館は午後6時30分まで」  
● 休館日 毎週月曜日、ただし5/2(月)は開館。

根津美術館  
NEZUMUSEUM

展示室1・2

特別展

国宝  
燕子花図  
屏風

一歌をまとう  
絵の系譜



かきつばたずびょうぶ おがたこうりん  
国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆 6曲1双 紙本金地着色  
日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

総金地に鮮やかに咲き誇る燕子花の群生。小袖の文様に通じる意匠的な構成が魅力の作品であるが、燕子花のモチーフは、『伊勢物語』の第九段「東下り」の一節に想像を誘う。物語の主人公たちが目にした光景を描いたものともいえる。

唐衣  
きつなれにし  
つましあれば  
はるばるきぬる  
旅をしぞ思ふ  
『伊勢物語』



よしのなつたずびょうぶ  
吉野龍田図屏風 6曲1双 紙本着色  
日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

爛漫の桜と錦繡のごとき紅葉を描いた華やかな屏風。画中の木々の枝に結ばれた短冊には桜と紅葉、あるいはそれぞれの名所である吉野と龍田川を詠んだ和歌が書かれている。名所絵の伝統と日本美術の装飾性が融合した作品である。

今年より  
春しりぞむる  
桜ばな  
散るといふことは  
ならはざらなむ  
『古今和歌集』

秋ふかき  
山よりやまに  
わけいれば  
なお色そふる  
もみちをぞみる  
『玉葉和歌集』



たそでずびょうぶ  
誰が袖図屏風 6曲1双 紙本金地着色  
日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

衣桁にかかる着物を主題とする謎めいた作品。「誰が袖図」という名称は、右の和歌からつけられたといわれる。

色よりも  
香こそあはれと  
思ほゆれ  
誰が袖ふれし  
宿の梅ぞも  
『古今和歌集』



花すゝき  
草のたもの  
露けさを  
すてくれゆく  
秋のつれなさ  
人めさへ  
いとふかくさ  
かれぬとや  
冬まつ霜に  
うづらなくらん  
『拾遺愚草』

松風の  
音だに秋は  
さびしきに  
衣うつなり  
玉川の里  
『千載和歌集』

きぬたう す くぼしゅんまん  
砧打ち図 窪俊満筆 1幅 絹本着色  
日本・江戸時代 18～19世紀 根津美術館蔵  
上記の古歌をベースにしたと思われる美人画。博学多才の浮世絵師・窪俊満(1757～1802)の代表作である。



すすき うずらす おがたけんざん  
薄に鶉図 尾形乾山筆 1幅 紙本着色  
日本・江戸時代 寛保3年(1743)  
根津美術館蔵

藤原定家が十二カ月の花と鳥について詠んだ和歌を主題とする、本来12枚セットの色紙のうち九月の図。絵も書も尾形乾山(1663～1743)による。

特別出品



いせものがたりえまき  
伊勢物語絵巻 3巻(部分) 紙本着色 日本・室町時代 16世紀 個人蔵  
『伊勢物語』125段の本文と絵からなる絵巻。絵は稚拙ながら雅味に富み、大ぶりの草花の表現も魅力的である。物語そのものではなく、そこで詠まれた和歌の内容を絵画化している場面が多いのも特徴となっている。

同時開催

展示室5  
藤崎コレクションの  
中国陶磁



はくじすいちゆう  
白磁水注 1口  
中国・唐時代 9世紀  
根津美術館蔵 藤崎隆三氏寄贈

藤崎隆三氏が蒐集し、御寄贈くださった作品は、触って楽しむことも部屋に飾って楽しむこともできる、愛すべき中国陶磁器たちです。

短い注ぎ口がついた水注は、唐時代には各地の窯で作られていた。灰白色の胎土で成型され、柔らかな質感の白釉がたっぷりと施された水注は、どのように使われたのであろうか。



さいとうそうじこ  
彩陶双耳壺 1口  
中国・新石器時代 甘肅馬家窯文化 紀元前3000年頃  
根津美術館蔵 藤崎隆三氏寄贈

赤や黒に呈色する鉄絵具で、大きな目のような文様を描いたのは黄河流域の新石器時代の人々である。おおらかな筆致が生み出した、愛らしさが見られる。

展示室6  
初風炉の茶

立夏を過ぎると、茶室では畳の上に風炉を置き、釜を掛けます。最初に風炉を用いることを初風炉しよぶろといい、季節にあった清々しい茶道具を取り合われます。



あんなんはなからくさもんちやわん とうじ  
安南花唐草文茶碗 銘 童子 1口 施釉陶器  
ヴェトナム 15-16世紀  
根津美術館蔵

染付で伸びやかに花唐草文が描かれた碗。ヴェトナムでは一般的なこのような器を、日本では17世紀以降、茶碗として賞翫した。



くわなかつぎ  
桑中次 1口 木胎漆塗  
日本・桃山～江戸時代 16-17世紀  
根津美術館蔵

桑を筒状に挽いた中次形の茶器。透漆を施して木目を見せ、肩と裾部に段差を付けることで、全体に柔らかい印象を与える。

## お知らせ



©藤塚光政

### ● 夜間開館

本展覧会最終週の5月10日(火)～5月15日(日)は開館時間を夜7時まで延長します。初夏の宵の根津美術館でゆったりとした時間をお過ごしください。

### ● シャンパン

NEZUCAFÉでは、5月10日(火)～5月15日(日)の夜間開館の期間中、17時よりシャンパンが登場。シャンパンが先か、光琳が先か、はたまた庭のカキツバタが先か、楽しみ方はお客様次第です。

グラス シャンパン 1,500円(税込)  
プロシュート&オリーブ 600円(税込)

### ● 特別催事

※詳細はホームページ等でご確認ください。



### ● 庭のカキツバタ

当館庭園の池では、毎年4月末～5月上旬にかけてカキツバタの群生が花を咲かせます。尾形光琳筆「燕子花図屏風」のご鑑賞とあわせ、初夏の庭の風情とカキツバタをお楽しみください。



## 関連プログラム

講演会	「和歌をまとう日本美術—平安の歌絵から琳派まで—」 日時 4月23日(土) 午後2時～3時30分 講師 三戸信恵氏 (山種美術館特別研究員) 定員 130名
(申し込み方法)	当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1講演会1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。
モーニングレクチャー	日時 4月16日(土) 午前11時～ 4月26日(火) 午前11時～
イブニングレクチャー	日時 5月10日(火) 午後5時30分～

各回45分間程度(定員130名)  
展示内容について学芸員がスライドを用いてお話しします。  
\* 事前申し込みは不要です。各回とも開始の15分前より講堂を開場します。  
\* 参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

※会場は、講演会・レクチャーいずれも根津美術館講堂。  
※各プログラムの聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

## 開催概要

【 展 覧 会 名 】	特別展「国宝 燕子花図屏風 —歌をまとう絵の系譜—」
【 主 催 】	根津美術館
【 開 催 期 間 】	2016年4月13日(水)～5月15日(日)
【 開 館 時 間 】	午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで] 夜間開館: 5/10(火)～15(日)は午後7時まで開館 [入館は午後6時30分まで]
【 休 館 日 】	毎週月曜日、ただし5月2日は開館
【 入 館 料 】	一般1300円(1100円) 学生1000円(800円) *( )内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
【 前 売 券 】	一般1200円 学生900円 2016年2月27日(土)～3月31日(木)「はとけの教え、とこしえに。」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
【 ア ク セ ス 】	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
【 住 所 】	〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
【 お 問 合 わ せ 】	TEL 03-3400-2536 (代表)
【 ホームページ 】	<a href="http://www.nezu-muse.or.jp">http://www.nezu-muse.or.jp</a> (日本語・English)

## 次回展



### コレクション展 鏡の魔力 —村上コレクションの古鏡— 特別企画 若き日の雪舟

2016年 5月26日(木)～7月10日(日)

不思議な力をもつとされた鏡。文様には人々の思いや願いが映し出されています。さらに特別企画として拙宗(若き日の雪舟)が描いた「芦葉達磨図」(米国・スミスカレッジ美術館蔵)を初公開。

海獸葡萄鏡 中国・唐代 7世紀 根津美術館蔵 村上英二氏寄贈  
星雲鏡 中国・前漢 前1世紀 根津美術館蔵 村上英二氏寄贈

### 【リリース・広報のお問い合わせ】

担当: 所、村岡、羽田 TEL:03-3400-2538 (直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp